



## 教授の呟き

### 第49回

# 明日のロジスティクスを支えるために

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

#### ●●● 韓国で始まったMBAコース

昨年の11月から12月にかけて、韓国のインチョン（仁川）に1週間ほど滞在した。2年ほど前にイナ（仁荷）大学は「アジア太平洋ロジスティクス学部」を設立し、昨年の3月から韓国政府の肝いりでMBA（経営管理学修士）コースを始めた。

8人ほどの外国人教員を招き、順番に英語による講義を進めていく。リーダーは、オーストラリアの大学を定年退職したロジスティクスの教授。イギリス、アメリカ、フランス、オランダ、カナダ、アイルランド、日本など外国人の教員が、順番で英語による講義を進めていく。学会での有名人も多かった。

集中講義は3週間が原則だが、9月からの後期では、筆者とカナダの先生だけが1週間（3時間の講義を5回）の短期だった。一方で学部には、外国で博士号をとった韓国人12名の専任教員がいる。

英語の試験を含め難関を突破してきた25人の学生は、20代中ごろから40才近くまで幅があるが、多くは航空会社、運送会社、コンサルタント、メーカーなどから派遣されている。ほぼ全員への奨学金や先生の招聘（しょうへい）費用は、政府（運輸通信省）の補助とのこと。

ただしMBAで初めてロジスティクスに接する学生も多いので、教育内容そのものが極めて高いというわけではない。比較すれば、日本も高

いレベルを維持していると思う。

#### ●●● 大統領自らロジスティクスを語る

滞在中に会ったインチョン（仁川）大学の先生によると、政府はインチョンをロジスティクス研究の拠点にしたいと考えていて、インチョン大学も近々公立大学から国立大学になるとのこと。一昨年の秋に招かれたプサン（釜山）のトンギ（東義）大学では、以前からあった都市工学科を都市計画コースと都市物流コースに組み替えた。

金大中前韓国大統領は、かつて都市物流マスタープラン作成を6大都市に指示。大統領自らがロジスティクスを語ることに、驚異と羨望を感じる。最近では、大統領選挙に出ると噂される人が「物流のためにソウルとプサンを結ぶ運河を造るべき」とマスコミに語り、「人気取りのためか」と批判されるくらい、ロジスティクスや物流が国民の身近にある。

空のインチョン、海のプサン。そこにはアジアのオランダを目指し、国を挙げての思い入れがある。空港や港湾の計画が多少大きすぎようとも、その大きさを満たすだけの貨物を集めようとの強い意欲がある。

韓国に出かける2日ほど前に久しぶり会った大連工科大学の友人によると、中国でも政府の後押しで、ロジスティクス分野に多くの留学生を外国に派遣しているとのこと。

シンガポール国立大学の友人も、アジアの海上物流研究ネットワーク

を構築中。また昨年8月に基調講演をしたフィリピン交通学会のテーマも、ロジスティクスだった。

### ●●●「国家のロジスティクス」論

石川栄耀の都市計画4分類に例えば、ロジスティクスにも、①民間協力のロジスティクス（ビルや商店街など）②民間企業のロジスティクス（荷主企業や物流専門家など）③公共のロジスティクス（自治体や警察など）④国家のロジスティクス（インフラ整備、情報戦略、セキュリティ対策、人材育成、教育研究など）——がありそうだ。(表)<sup>(1)</sup>

アジア各国は、国家としてロジスティクスに真摯（しんし）に取り組んでいるように見える。

日本においても、総合物流政策大綱やグリーン物流パートナーシップなど、高く評価されるべきであるし、物流コストの削減やCO<sub>2</sub>の削減などは重要なテーマである。しかし、それと同じくらいに将来に大きな影響を与えるインフラ整備、情報戦略やセキュリティ対策、人材育成や教育研究、制度改革などは、どの程度進んでいるのだろうか。

また日本企業は直截的なコストダウンには真剣であっても、基礎体力づくりにも似た大学院への社員派遣や産学連携への興味はどのくらいだろうか。大学の努力不足も当然ある。入社後の社内研修で十分ということもあるかもしれない。しかし研究論文と報告書を混同したり、体験を普

表 4つのロジスティクス論

①民間協力のロジスティクス
ビルや商店街などでの、物流活動の改善
②民間企業のロジスティクス
荷主企業や物流専門家などの、人材育成や物流活動の改善
③公共のロジスティクス
自治体や警察などによる、公共福祉のための規制誘導
④国家のロジスティクス
インフラ整備、情報戦略やセキュリティ対策、人材育成や教育研究など

遍的学問的な価値に昇華できないのであれば、あまり多くは望めない。

実社会を経験し、かつ頭の柔らかい時期こそ、大学院で学ぶ絶好のチャンスである。

### ●●●初夢に代えて

外国の大学に呼ばれて、社会人相手にMBAコースで教えることは誠に光栄ではある。しかし日本でも同じようなプログラムがあれば、どんなに喜ばしいことだろう。MBAコースも悪くはないが、研究室でじっくり物事を考える日本スタイルも捨

てがたい。

明日のロジスティクスを支える人材は、学生もさることながら、ロジスティクスにかかわっている若い社会人だろう。MBAと銘打たないまでも、勤務先を含め多くの大学で、夜間開講や土曜開講の準備を整えている。そろそろ企業研修を超える時代になっても良いはずだ。

大学院が、若い社会人たちであふれかえるような状況。それが正夢になることを期待している。☑

(1)石川栄耀：石川栄耀都市計画論集、pp832-835、pp901-905、日本都市計画学会、彰国社、1993

**Profile**

東京海洋大学 海洋工学部  
流通情報工学科 教授

**苦瀬博仁**

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) <http://www.e.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

